

平成22年度 第3回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成22年11月4日(木) 14:00～
- 2 開催場所 宇都宮市役所 14A会議室
- 3 出席委員 17名
廣瀬委員長, 高橋副委員長, 田中委員, 小林(修)委員, 檜山委員, 櫛淵委員, 山野井委員, 塚田委員, 青木委員, 郷間委員, 岡村委員, 柳田委員, 石澤委員, 河田委員, 金子委員, 碧井委員, 櫻井委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
 - ・ 報告事項
 - (1) 平成23年成人式の開催について
 - (2) 第52回全国社会教育研究大会への参加報告について
 - ・ 協議事項
 - (1) 「宇都宮市文化振興基本計画」の見直しについて
 - ・ その他

7 発言の要旨

廣瀬委員長	<p>前回, 7月9日に会議を行い4ヶ月が経過しました。本日の会議は文化振興基本計画の見直しの部分をメインに進めていきたいと思います。</p> <p>また, 成人式の開催と先月末に福島県で行われました全国社会教育研究大会の報告も合わせて実施していきたいと思います。</p> <p>では, 議事の1平成23年成人式の開催について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【資料について説明】</p>
廣瀬委員長	<p>成人式につきましては4千人の青年を対象とした大規模の社会教育事業です。青年に対する貴重な社会教育の場ですので, ここで大人のマナーやルールを学ぶ, 我々の出した成人教育の答申に基づいた運営をする。あるいは地域教育の担い手になる。ということも合わせて, 単なる同窓会ではなく大切な教育の場であるというような説明でした。</p> <p>そういった色彩を出しながら今年度も開催するということです。委員の皆様もそれぞれ出席の依頼が来ておりますので, 時間の許す限り参加して</p>

いただきたいと思います。
この件につきましてご意見やご感想はありますか。

櫛渕委員 式典についてですが、国歌斉唱の後に、宇都宮の歌が入ったことはいいと思います。市民憲章についてはどうでしょうか。

廣瀬委員長 市民憲章の扱いはどうでしょうか。

事務局 市民憲章につきましてはこの式典の中では予定していません。

廣瀬委員長 パンフレットの中に市民憲章は入りますか。
ご指摘の通りかと思いますが、配布物の中のパンフレットに市民憲章が印刷されているのではないかと思います。

事務局 確認をしましたところ成人式の会場で配布されるプログラムの中に記載してございます。

廣瀬委員長 例えば、それを唱和するかどうかは別としても成人の言葉の中に「市民憲章を尊重して」という一言を入れていただくだけでも周知されるのではないかと。市民としての意識を高めるためには市民憲章を大切にすることは社会教育の場として極めて重要なことだとおもいます。各地区で青年が発言をする機会があれば「市民憲章に基づき」とか、「市民憲章を活かして」というようなご指導をいただくようにということでもよろしいですか。
その会場によって唱和することがあっていいと思いますが、運営は各地区に任されている現状ですから、少なくとも市教委から市民憲章の精神を重視して、式典の中に取り扱ってほしいという範囲で要望はできますね。それでよろしいですか。宇都宮市の歌斉唱が新しく入ったということを考えますと、今後正式なプログラムとして入れるかどうか内部で検討していただければと思います。
他にご意見はありますか。
成人式についてできるだけ参加するつもりですので、一緒に成人の社会教育の場に関わっていきたいと思います。
続いて、2点目の第52回全国社会教育研究大会への参加報告につきまして議題を進めてまいりたいと思います。こちらは7月の会議で高橋副委員長と石澤委員に参加していただくことになっておりました。また、事務局のからは佐藤総括主査が参加しています。
初めに高橋副委員長から大会の感想などを報告していただければと思います。

高橋委員 10月27日から29日の日程で、私は28日に参加させていただきました。基調公演では、NPO法人ライフマネジメントセンター理事長、もの

つくり大学工学部の客員教授，現在のタカラトミーの創業者でもあり，工学博士の佐藤安太さんから公演をいただきまして，私は大変感銘を受けました。

「未来設計システム思考技術で日本国民の輝かしい未来を設計し再生復活をめざす」という講演の中で今の日本の国家戦略の目標がない状況を大変危惧されまして，特に国民全体が努力に向かって進んでいく長期ビジョンがないということをお話されていました。

また，これからは人材育成の社会教育事業が最優先課題であるということで，これからの時代を担う大学生の話をされました。今の大学生は入学する時は希望を持って目の輝きもすばらしいのですが，3ヶ月たつと目の輝きがなくなり，当たり前前の要求が満たされ，次の目標が明確になっていないまま，現状に満足してしまう。次の目標に向かう努力をしなくなるといった現象が生まれてきているように感じ，このままでは日本が危ないとのことでした。

地域社会の取り組む課題としては生き方，働き方，学び方というものを個人の尊厳を守りながら自己実現を図っていくということ。生きる目的は人格の形成を目指すことであり，人間性を高め，仕事を通して社会貢献を行うことが必要であるということでした。

また，これからは生きがい，働きがい，学びがいというものを肌で感じて民主的で文化的な国づくりが必要であるとも話していました。

この30年の政治がもたらした経済的損失や，若者の引きこもり，不登校，家庭崩壊，政治家の不祥事，公務員の不祥事等の失われた倫理道徳心を取り戻すことが必要だということでした。

今こそ輝かしい日本の未来は社会教育，学校教育によって実現します，人材育成の戦略を最重要課題として取り上げていきたいと思いますということ，社会教育委員の役割としてその後のシンポジウムが行われました。テーマは「継承」と「創造」が循環する地域社会をつくる社会教育振興のあり方。3人のパネラーが意見交換をし，その中で青少年教育の大切さを訴え，今こそ社会教育の出番だということでした。特に日本青年団協議会の吉田会長の話に大変感動したのですが，今の地域の無縁化を防ぐためにはまちづくりの中に青年の居場所作りを加えることが大切だということをお話しました。また，働いている青年団が活動する場として公民館も24時間提供できるようなシステムになると若い方の活動が広がると。

今回初めて参加させていただき，生涯学習というと自分だけが色々な講座を聞いたり，参加したりと自分でものにしておりましたが，これからは地域資源として地域の中に発信し，循環させていく。それが今後，地域社会の取り組みに大きな役割を果たすのではないかと本当に感動しました。

廣瀬委員長

非常にいいお話を聞かせていただきました。大事な青年の問題，次の世代をどうするか。青年の問題はちょうど成人式の話の後だったので分かり

ます。働く青年のための学習機会、組織作りは次の世代に考えていかねばならないと思います。青年がいない訳ではない4千人もいる。それに対する教育の機会を失ってないかということを高橋委員はおっしゃたのではないのでしょうか。我々関係者にとっては耳の痛い話になりましたが非常に勉強になりました。

つづいて、石澤委員どうでしょうか。

石澤委員

今回は参加させていただきありがとうございました。29日の第一分科会の家庭教育支援の方に参加させていただきました。まず事例提供として1例目は青森県五所川原市のNPO法人子どもネットワーク・ステップの活動発表でした。NPOになったのは7年前で、それ以前もこども劇場として活動されていたそうです。宇都宮でもこども劇場さんは大活躍されています。放課後のこどもの居場所作りや、先月の宮っこフェスタのキッズカフェなどで、体験を重視した活動をしているので、真新しい印象はありませんでした。今回の発表者で事務局長の野呂さんが行政サイドの「子育てサポートセンター」や「家庭教育支援チーム」などの実行委員会に参加した経緯があり、行政との繋がりを作っていて一団体の活動ではなく一般市民にも広がりを見せていると感じました。2例目ですが、鳥取県米子市の子育て講座「タムタムスクール」実践講座の報告でした。年間11～12回の講座を実行委員会形式で開催していて実行委員会のメンバーは地域で子どもに関わる仕事をされている方や、元保育士、行政からは生涯学習課や乳幼児健診を担当する健康対策課、保育園の担当部署の子ども未来課などの課長・係長などで構成されているそうで、講座を開催するのに20回近く話し合いの場を持つそうです。子どもの体験と親子の触れ合いとか、母親同士の仲間作りまでを見込んだ講座は宇都宮でも多数開催されていると思いました。

2例目の発表者であるタムタムスクール実行委員の会長のト蔵さんが話されたことで印象に残ったことは、託児がしっかり出来る体制づくりにここ数年力を入れてきたという点でした。「今時の母親達は子育てサロン、子育て講座がたくさんあって恵まれている」、「それなのに子育てがづらいなんて考えられない」というご意見も、まだ耳にすることもありますし、そういう風潮が残っていると私も感じることはあります。そんな中でタムタムスクールでは、退職をされた団塊の世代の方々が託児員として登録をされ、また、実際の託児ではお子さんとのふれあいを楽しみ、生きがいを感じているという発表があり心を動かされました。子ども達も異年齢で遊ぶ機会がめっきり減っているなどと思いますが、ト蔵さんは、大人も異年齢で活動することが必要と話されていました。地域の縁とか子どもを介した縁、そういったものがうまく循環している活動なんだと感じました。

分科会に参加させていただいた個人的な感想ですが、「家庭教育支援」というところに惹かれて大会への参加をお願いしました。未知で私の全く知

らない「秘策」のようなものを聞くことができるのかと期待をして望みましたが、今までにも何回か聞いたことのある子育て支援のための広場の運営の仕方であるとか、講座の持ち方といった所と重なる発表だったという気持ちです。宇都宮として考えた時には同じようなものやそれ以上のものを行っているなどと思って帰って参りました。子育て支援、家庭教育支援はその場では成果が見えにくく、開催回数やそこに来た数などで効果を計られがちですが、講座やイベントに携わる一人一人の方の思いや願いや祈りが後に実を結ぶ活動なのだろうとト蔵さんの話を聞きながら感じたところです。以上です。全国社会教育研究大会に参加させていただきありがとうございました。

廣瀬委員長

いかがでしょうか。感想でもあれば発表していただけますか。

社会教育研究大会では無縁社会にかなり敏感に反応したような雰囲気です。大人同士の異年齢交流で大人同士の繋がりをきちんと作っていかねばならないと答申で書いた通りですが、まさに無縁化は30年前に起きていた。私たちが作ったのは生涯学習社会ではなく無縁社会を作ってしまったのかと愕然とする思いでした。そういうことに対応するための私たちが出した成人教育の答申は非常にタイムリーだったのかなと思います。大人同士の繋がりこそ、いい子ども達を作る原点になるのだろうと思いました。ありがとうございました。

では、最後に事務局の方から全体の様子をご報告をお願いします。

事務局

第52回全国社会教育研究大会についてご説明したいと思います。資料の1, 2ページをご覧ください。こちらの全国大会は昭和32年度から開催されていまして、「うつくしま、ふくしま、地域が元気になる社会教育」が大会スローガン、「継承」と「創造」が循環する地域社会をつくる社会教育進行のあり方を研究主題として開催されました。なお、主催者の発表では参加者が約900名でした。つづきまして資料の3ページから4ページをご覧ください。主な大会日程でございますが、先ほど高橋副委員長からお話がありました基調講演、シンポジウムのほか初日には開会行事、中学校によるアトラクションがありました。2日目は分科会がございまして、石澤委員が出席されました家庭教育支援を初め5つの分科会がありました。来年の全国大会は京都府で行われる予定で、京都市、長岡京市、宇治市、亀岡市の4市で平成23年9月21日から22日の日程で開催されます。大会スローガンは「おこしやすおもてなしの心を培う社会教育を！」、研究主題としましては「社会的親の創出による『公共力』の醸成」、見てみぬふりをする社会からお節介な社会へ」ということで行われることとなります。以上が全体概要となります。

廣瀬委員長

ありがとうございました。来年は京都だそうです。ぜひ社会教育委員の

間に大会に参加していただければと思います。私も参加していますが、これから関東甲信越がこれからありますので参加するつもりです。

大会についてご意見、ご感想があればどうですか。

次の議題に移りたいと思います。

協議事項（１）「宇都宮市文化振興基本計画」の見直しについて事務局の方から説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

５ページ目を見てください。要約しますと、前回の会議での意見は、文化課が４つに整理し、それはこれまでの基本方針で対応しているとのことです。また、事業を精選したり、重点化したり、新規事業を入れたりしながら、みなさんの言ったことを政策の中に反映していくということです。

このような方向性の確認とみなさんの意見が反映しているか議論をしていただくのが１点です。

２点目は１２ページにある指標を設定したとのこと。この指標についてどうかという意見も聞きたいと言うことです。その２点について意見をお伺いしたいと。

我々が言った４つの意見について概ねうまく生かされている。重点化すると言っています。あるいは精選していく、新規事業もしていくとのことです。

まず１点目のご意見を伺いたいのですがよろしいですか。

塚田委員

最初の文化の人づくりにというところの「また高度な文化活動に対する支援が遅れていることから」という文言がありますが、この高度とはどのようなレベルのこと指すのか分からない。もう１点は大谷の景観が入ってきますが、文化資源を活用したとありますが、大谷の景観は「自然遺産」の文言を入れた方が文化振興計画だからといって、文化に拘る必要はなく「自然遺産」みたいな文言を入れてもいいのではないかと思います。

廣瀬委員長

２点ありましたので担当課の方から答えていただきたいと思います。

事務局

それでは、初めの質問の高度なという非常に難しいご質問だとは思いますが、我々の目指しているのは市民が独自性をもった創造的な文化活動が行えるという宇都宮市らしい、宇都宮市独自の、宇都宮市ならではの、創造活動を目指しているところです。そういった市民の方が作り上げていくような文化活動を支援して行きたいと考えております。

２点目の大谷の景観でございますが、自然の景観も文化の景観、文化的な物と考えていただいてよろしいかと思います。大谷の景観は平成１８年に国の自然的な名称指定をいただいたと同時にこれから進めようとしてい

るのは大谷石の石切りに関わる人工的に加工した岩肌があります。それは人の文化活動、生産活動により営まれた景観なのです。それも合わせて我々は文化活動によって生産活動によって残っている景観として評価していこうとのことです。2面で大谷を評価していこうと庁内の各担当各課と連携をして保存をしていきたいと考えております。

廣瀬委員長

「自然遺産」の言葉が入るのかを聞きたいのですが。

事務局

もちろん自然のことも入ります。

廣瀬委員長

高度な文化を理解できましたか。私も実は誤解していました。よろしいですか。

塚田委員

高度と使わないで市民のと使った方が分かりやすいのでは。

事務局

誤解を招かないように分かりやすくしたいと思います。

廣瀬委員長

高度な支援とはアーティストとかで活躍しているというイメージを持たれやすいかもしれませんね。今、説明いただいてなるほどと思いました。公的支援をするには妥当な政策だと思いました。ほかにございませんか。みなさんご意見、ご感想はどうですか。

小林委員

Ⅱの「文化遺産・伝統文化などを活かし・・・」の課題のポイントの文化財の整理及び展示に活用するための文化財収蔵施設の集約化を検討することですが、具体的にはどのようなになりますか。

事務局

資料の10ページでございます。1番の文化財の保存・活用のうち事業名の文化財収蔵施設のあり方の検討の部分。内容といたしましては、それぞれ宇都宮市の所有している埋蔵文化財とか民具、農具、文献資料等があちこちに保存してあります。それが集約化することによって今後、市民の皆さん、学校教育等へ便利にかつ効果的に活用していくために集約化を図るようなことを今後検討しております。

小林委員

夢で結構でするのでどのようにして行きたいですか。

はっきり言えば本市独自の美術館と併設するような博物館を作るとか、今の財政状況だと分からないのですが、何か夢はありますか。

事務局

夢と言うことで。財政などの問題もありますので。担当の方から話がありました。文化の展示、文化会が点在している。これを一つにまとめて行こうと言うようなこととして、そこに展示施設、保存施設があるといい

ということで博物館みたいなものがあるといいなというイメージです。

まだそこまでは言い出せませんが検討と言うことです。

廣瀬委員長

施設の集約化の検討ですからいつになるか分かりませんが、博物館がないのは、中核市ではめずらしいです。10年も20年も前から博物館がほしいという声が出ていると思います。文化財豊富な宇都宮市ですので、博物館でなくてもいろいろな施設を兼用しながら埋蔵文化財、施設の集約化によって、学校教育の次の世代の子どもに与える教育施設として機能していくと思います。

櫻井委員

関連なのですが、財政的なものもあると思いますが、既存施設の有効活用という言葉が後で出てきますが、例えば城址公園の土塁の中の有効活用についてはどのように検討されていますか。

事務局

何年か前に土塁の中に歴史の展示施設ならびに体験施設の設置といった動きがありましたが、現在の財政状況の中で、今の所は白紙状態になっています。土塁の中の施設は展示施設の大きな候補であるという風に考えておりますが、動向が固まっておられません。

また、土塁は公園の部署の所管施設でありますので、そちらと一緒に連携をとって行きたいと思います。

廣瀬委員長

大いに関心がある所だと思いますが、全国的な流れから見ると、どこの市町村の博物館も閉鎖しつつあるのが今の状況です。夢を語りたいたところですが現実的には閉鎖している博物館もある状態ですから、財政状況が好転した時に考えていただければと思います。

他にございませんでしょうか。

河田委員

私は2回目の出席ですが、夢を語るとのことできっかけを作っていただきましたので発言させていただきます。

一般市民のレベルから考えた時に美術館や博物館がどこまで利用されていくのか。ある程度の人が行ったとしても、それが繋がっていかないと意味がないと不安に感じています。

昨日、宇都宮でスポレク祭がありまして、委員として陸上競技場に1日おりました。そこで、子ども達にスポーツを指導していたのですが、子どもたちは開会式が始まる前から3時ぐらいまでずっといました。こんなに子ども達がいるのかと思いました。その子ども達はきっとスポーツやレクリエーションに対して興味を持っている子達やそういう親が連れてきたんだろうなと感じる訳です。さまざまな環境を整えていくことはいいことだと思いますが、それ以上に子どものうちから文化活動でもスポーツ活動でもそういったことに携わるチャンスをどんどん提供していくことによって

経験をたくさんさせるような環境づくりが、物があるよりは必要なのかなとつくづく感じました。

またこの前、アジアで始めてクリテリウムを宇都宮で始めてやりました。あの時に学生に応援に行こうと言うと、当初、サイクリングに興味がないと言っていた学生達が応援に行くと1時間で本当にびっくりしていました。見たり感じたりしてみないと分からない。自転車に興味なかった学生達が、鳥肌が立つように「すごいね」と言っているのです。

そうすると例えば、ジャズをどのように聞かせるのだろうと、学校単位で連れていけば「うるさいな」となってしまうかもしれないけれど、個人レベルにすればどこまで家族が連れて行くのだろう、体験してくれるのだろうと。どんな組織があるのだろうと。子ども会や育成会のさまざまな組織の中でどれだけ活動しているのだろう。ただ繋がるように持っていくにはどうしたらいいのだろうと。そのあたりの夢を語りたいなど、実際どうしたらいいのだろうかと具体的な方策は何だろうと見えてくれば嬉しいと思いました。

廣瀬委員長

そういった今の発言の趣旨を生かして振興計画を進めていただければと思います。

他にいかがでしょうか。

岡村委員

5ページの既存の施設を有効活用した文化環境の整備や市民が活動を展開しやすい環境づくりに取り組むと大変結構な事ですが、9ページの6番文化活動施設の整備の市公共施設の防音・展示設備等改修で重点事業の選択（計画計上）にあたっての考え方で11の地区市民センターすべての施設で同程度の設備を有し、文化活動施設として一定の整備が完了したため非計上となっています。11の地区市民センターは完了したということで非計上なのですが、宇都宮市は39地区あり、28地区の活動拠点はコミュニティセンターです。地域コミュニティセンターで防音設備がされているところは聞いたことがない。私は富士見地区ですが、富士見のコミセンで利用団体として登録している団体は63、利用サークルとして登録しているのは38ある。利用団体は会議が主ですが、38のサークルの中にはお囃子会や太鼓クラブなどがあり、周りの人に迷惑になるので叩けない、練習できない。ほんの気持ち程度太鼓を叩くぐらいの練習しかできない。子どもお囃子会も小学生でスタートしましたが、富士見小を卒業した子どももお囃子会に入っていた子が中学生、高校生、社会人になって子どもたちとお囃子会で活動している。高校生、社会人は叩けないということになっているものですから、ここで非計上にしたのは11地区市民センターを対象にした非計上の判断だと思います。宇都宮市39地区の28の地区はおそらくコミセンが活動拠点だからそういう意味での防音装置があればという期待や希望を持っているのではないかと思います。例えば富士見コミセ

ンで言いますとコミセンの真ん中のフロアーを挟んで道路際が和室で、中央の東が学校の校庭に面した会議室です。せめて会議室ぐらいが防音になっていれば近所の方の迷惑を防げるのではないかと言う気が常々しているものですからここで非計上ということでそういう公共施設の防音は今後計画からは外れるというのはちょっと寂しい気がします。

ぜひ検討していただければと思います。

廣瀬委員長

文化活動は管理者には評判がよくない。でも、それを保障してくれないと文化活動が保証されない。非常に難しい活動です。芸術文化の支援はさまざまな設備や資金を必要として、それを担う人の数はそれほど多くないという課題は残って非常に文化活動支援は難しい。そういった、中心的な施設とか目立った施設だけでなく地元の文化活動も大事にしていくということもこの計画の中に入れていただければと思います。

貴重なご意見いただきましてありがとうございます。

もう1点ですね、指標についてご意見伺いたいとあったのですがどうですか。目標値が右上がりになっていますが私は団体の数など維持するだけでも大変だと思っていますので、本当に増やしていいのかなと思います。例えば-10で食い止める指標があってもいいと思いますが、とにかく右上がりです。パーセントを維持するとか文化活動をしている市民の割合を70%割らないようにがんばるのも結構大変なこと。今あるものを継続するだけでも大変な時期になっているのに尚且つ上げることについて、私はいかなるものかと。予算も圧縮される中で右上がりの発想にここだけなるとするのはバランスを欠いているような気がします。これは私の意見です。

その他にありますか。

塚田委員

カッコの中に指標の設定は現在検討中であると説明されましたが、そうすると目標は21年度にやったものと値が違ってくるといえることですか。同じような設定でやるのではなくて違う方法で考えているということですか。

事務局

カッコ書きで書かせていただきました各事業の進捗状況の確認のための指標の設定と申しますのは、それぞれの計上事業の中で文化会館や美術館に出前講座など充実の事業がありますが、それぞれの事業でどれだけの教育的事業を5年間でやりますよという指標と目標を設定するのものです。それらは事業を確実に実行しているか計画を実行しているかを確認するために使うものです。それらの事業の積み重ねで結果としてこの3点を上げさせていただきました。それぞれの指標の目標値が達成できると考えています。27年度も同じような設問で市民の皆様にアンケートを取っていきたいと考えております。

廣瀬委員長

検討中ということですのでこれで決まったということでない。
その他にありますか。

小林委員

宇都宮市として蒲生君平氏をどのように考えているのか。知名度も違う人ですが、田中正造という人が今、佐野市で取り上げられている。

成人式で宇都宮の歌を歌うとありましたが、市内の学校で音楽の時間に扱っていない。そのような状態の人に成人式でテープを流しても聞いてもらう程度。それと同じように基本方針について書かれている中の「子どもを対象に文化に触れる機会を充実し、生涯の文化活動につなげる」これは、子どもが文化活動を行うという意味の部分だと思いますが、もう一方では宇都宮にどんな歴史的人物なり歴史的遺産があるのか、もちろん大谷や各地に点在する史跡など、そのような物に十分触れさせたり、文化財巡りをしたりして生徒に実物を見せること、実際の現場を歩くのは学校教育としてはできていない。イベントを計画してそこに來れる人を呼んでいるのが実態です。そのような状況を考えた時に宇都宮の生んだ人として取り上げるような考えはありますか。蒲生君平氏をどのように扱うのか。扱い方としては田中正造氏であれば歴史漫画などを作って、学校の図書館に置くなどの計画されているようですが、ちょうど田中正造氏も3年後ぐらいに没後100年を迎える、蒲生君平氏も同じ年に200年を迎えるのでどのようにお考えでしょうか。

廣瀬委員長

答えにくいと思いますが、意見でも結構です。

事務局

蒲生君平氏は過去に議会の質問もありまして、さまざまなご意見を頂戴しております。小林委員がおっしゃる通り前方後円墳という言葉を自ら作り、その言葉が考古学的な専門分野を含めて日本中の方々に使われています。

また、山稜志という古墳を学術的に調査した方が宇都宮の出身ということは認識しているところです。その蒲生君平氏を称えるにあたりましては大正元年頃に当時の宇都宮市長、宇都宮市の有力者の方が発起人となって宇都宮市民の大勢の声を集めまして、二荒山の奥にある蒲生神社を作ったわけです。蒲生君平氏は宇都宮出身の一面では考古学者でもあり、一面では思想家でもあります。行政としては考古学に名を残した方ということで市民のみなさまにご紹介していこうかと思っています。その中でさらに多くの市民の方から蒲生君平氏の功績をさらに聞きたい、さらに調べたいという話や、市民意識の盛り上がりがありましたら、没後200年となる平成25年に蒲生君平氏を中心としたものを市民のみなさまに周知啓発をしていこうと考えています。現状での文化課の蒲生君平氏に関わる考え方は以上です。

廣瀬委員長

文化振興計画についての意見をこれで閉じさせていただきたいと思えます。この点についてはこれでよろしいでしょうか。

その他についていかがでしょうか。

事務局

その他について2点ほどあります。1点目は前回7月の社会教育委員の会議にて皆様から答申をいただきました成人教育の関係ですが、こちらにつきましては、中・長期的また計画的な取り組みになるように具体化に向けて調整しております。成人教育は生涯学習の分野だけではなく完結できるものではないというご意見がありまして、市民共同の分野、保健福祉、市民生活、安全安心などさまざまな分野で現在ヒアリングを行っております。どの分野におきましても大人の問題や人づくりに関わる問題を抱えておりまして、そういったところと連携をして進めていこうということ考えております。現在の進捗は以上となります。

2点目ですが、次回の社会教育委員の会議につきまして年明け2月頃を予定しております。詳細が決まりましたら委員の方々には改めてご連絡差し上げたいと思えます。

廣瀬委員長

その他の案件ないようですので以上を持ちまして本日の会議を終了させていただきます。